

木材利用の活動報告

林地未利用材の有効利用に向けた取組

石狩振興局 森林室 向 敏明

取組の背景・目的

近年、地球温暖化防止等の観点から道内の木質バイオマスのエネルギー利用が拡大（H17：約283千m<sup>3</sup>→H22:約550千m<sup>3</sup>）しています（図1）。

石狩管内においても木質チップ、木質ペレット、薪材のエネルギー利用が拡大（H22：約27千m<sup>3</sup>）しています。

森林整備においては、森林施業の集約化による林地未利用材量の増加と安定供給が期待されています。

林地未利用材をエネルギーとして利用促進を図るため取組みました。

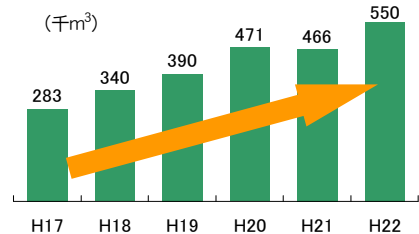


図1 北海道における木質バイオマスエネルギー利用量の推移

取組の内容

■木質バイオマス大規模利用推進会議の開催（札幌市）



10月19日 36名 1月23日 29名  
3月28日 34名

安定的な需給体制の構築

木質バイオマスエネルギー大規模利用者と国有林、道有林、森林組合等の供給者による林地未利用材の安定供給に向けて検討を進めました。

■木質バイオマスセミナーの開催（当別町）



11月17日 60名

林地未利用材の利用における情報共有

木質ペレット及び薪材等の木質バイオマス利用における現状と課題について、情報を共有しました。

■林地未利用材集荷の取組



集荷モデル実証事業等の実施

●皆伐

カラマツ40年生 29, 39 t/ha（石狩市）  
集荷方法 地拵え後に原木集荷

●間伐

トマツ26,32年生 16.55 t/ha（石狩市）

●受光伐

トマツ43年生, カラマツ46年生 30.74 t/ha（千歳市）

集荷方法 土場堆積→移動式破砕機による現地破砕→チップ集荷

取組の成果

○木質バイオマスエネルギー大規模利用者への供給体制が構築されました。

○林地未利用材の利用について、需要者側と供給者側の情報共有が図られました。

○石狩地域における効率的な林地未利用材の集荷システムに向けた需要者と供給者の連携が図られました。

課題

林地未利用材の利用は、間伐・主伐の種類、素材生産量、集荷方法、樹種によって労働生産性が変わってまいります。

今後の展開

各関係者の役割を明確にし、データ集積・分析等を行い、石狩地域に適した林地未利用材の効率的な集荷システムの確立を進めます。

